

# 生まれ変わる街

安慶名のまちは戦後の復興期に生まれ、沖縄県中部の商業中心地として栄え、多くの人たちが暮らし、集いの場となってきました。私たちはこのまちで暮らし、働いてきました。今、このまちが大きく生まれ変わろうとしています。



数々の商品が並び、賑わいを見せる安慶名市場（昭和35年頃）

## 戦後復興の先駆け

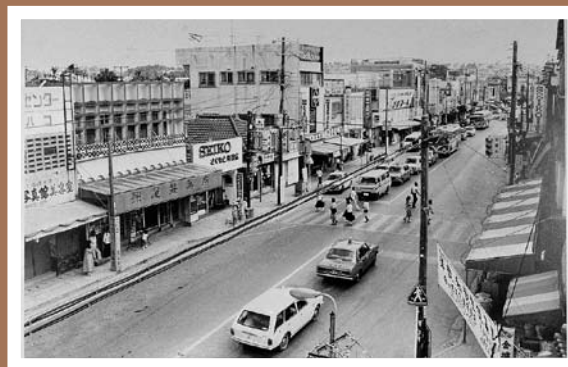
終戦後、米軍により土地家屋を強制収用され、移住を余儀なくされた人々がいました。当時をよく知る兼城英眞さん（元具志川村長）のお話によると、各地に収容されていた住民は、昭和22年頃安慶名大田原（県道75号線東側）に移住が許可され移り住みました。それから2〜3年後に安慶名市場付近も米軍から開放され、安慶名区民はもとより、郷土に戻れない人々が移り住み人口が増加していきました。

そのころに、（故）具志堅上貴さん、照屋寛敏さん、兼城英眞さんの手によってできたテント小屋の仮設市場が安慶名市場の原点とのことです。

安慶名市場は、具志川地域はもとより、勝連、与那城地域の住民生活の拠点として栄え、市場を中心に個人商店が建ち並び、料亭5軒、劇場や映画館等もある賑やかな時代をむかえました。



ベニヤ通り沿いにあった銭湯は、住民の憩いの場でもあった。（昭和35年頃）



個人商店が建ち並び安慶名大通りと今は懐かしい右側通行車両（昭和45年頃）